

道徳科通信



特集

「多様性」に 出会う学び

働くろう者と出会って 齋藤陽道
多様な文化にひらかれた学校づくり 浜田麻里
学校におけるセクシュアルマイノリティ 貴戸理恵
道徳教育において多様性をいかに扱うか 荒木寿友

連載

知って役立つ発達心理学② ……7

渡辺弥生

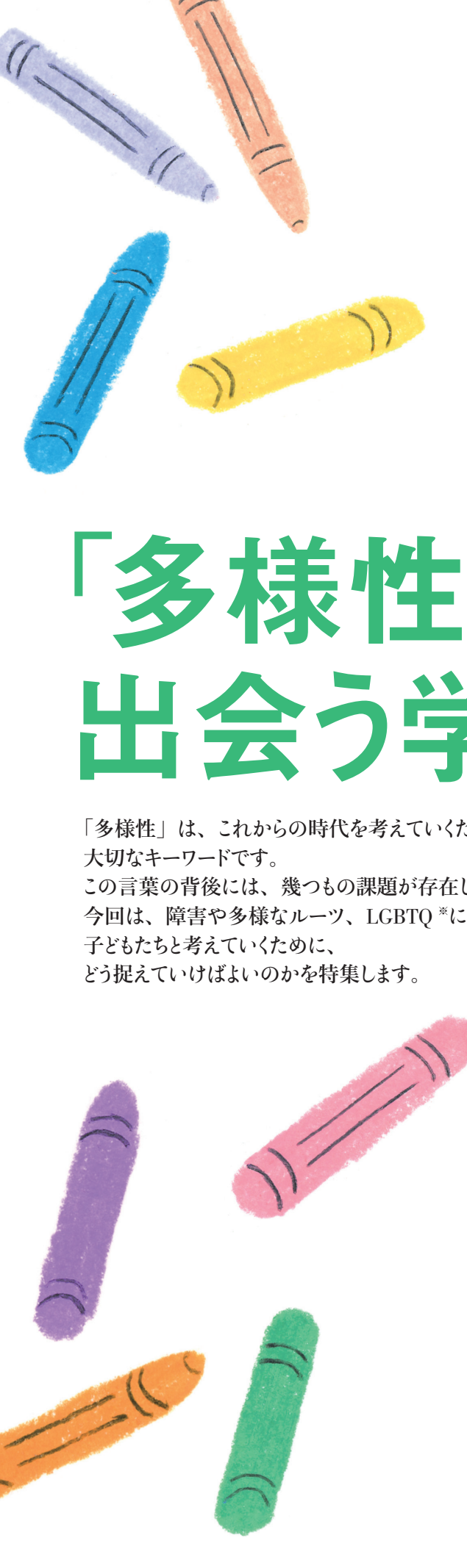
わたしの授業レポート ……8

「漢字に思いをこめて」(小3) 中野真悟・朝倉喩美子

「宇宙の始まりに思いを寄せて」(中2) 高橋優子・田沼茂紀

道徳授業で哲学鋼を② ……12

苫野一徳



「多様性」に 出会う学び

「多様性」は、これからの時代を考えていくための大切なキーワードです。
この言葉の背後には、幾つもの課題が存在します。
今回は、障害や多様なルーツ、LGBTQ^{*}について、
子どもたちと考えていくために、
どう捉えていけばよいのかを特集します。

【エッセイ】

働くろう者と 出会う

齋藤陽道 (写真家)
Harumichi Saito

いま、全国のいろいろな職業に就いて働くろう者の取材をしています。「働くろう者を訪ねて」という連載です。最終的には、彼らの一冊の写真集を作ることが目標です。

この企画は、私が写真を始めた20代のときから想い続けていたものでした。きっかけになったのは、私が通学していたろう学校の教師の悩みです。

「将来、どんな仕事をやりたいかというイメージがない子が多い。漠然と、公務員や、自動車工場、銀行や旅行会社等の特例子会社でパソコンを使う仕事ぐらいしかできる仕事はないと思って思考停止している。

でもそれは、いろんな仕事に就くろう者がいることをしっかり伝えてこなかった、ろう学校の責任でもある。学校の先生も、聞こえない人の幅広い将来像はほとんど知らない。

仕事をしているいろんな人と実際に会って、話を聞けたらいいんだけど、それにも限界がある。メディアも取り上げてはくれないし。

そうすると聞こえない子どもたちは、自分たちの将来やりたいことを夢見ることも語ることもできないまま、周りの言いなりにしかなれない。」というものです。

手話を言語とする「ろう者」である私自身も、将来どんな仕事をしたいのかイメージがまるでありませんでした。正確に書くと、「聴覚障害者にできる仕事は、なにもないだろう。自分の希望なんて叶わない。どうせどこを受けても断られる」という諦めが根深くありました。流されるまま、ろう学校に紹介してもらった会社に就職します。就職できただけよかったのかもしれないのですが、自分の希望や意志が希薄な仕事は、時間が過ぎるのをぼんやりと待つだけの苦しいものでした。

そんななか、学生のときに触れた写真への関心が、心の中でくすぶっているのを感じていました。写真を通していろんな人と出たいという願いが、会社勤めをするなかでどんどんふくれあがっていきます。

どうせだめかもしれない。でも、一度だけでも自分のやりたいことに賭けたい。そうして、一念発起して退社し、写真の道を歩むことになりました。

それからさまざまな縁がめぐり、今、私は写真家として仕事をしています。昔の自分にはまるで想像もできなかった職業に就いています。

未来は自分でつかみとることができるのだと実感したとき、この未来を自分でつかみとることの手応えと可能性を、若いろう者たちにも知ってほしい。聴者にとっても、ろう者の職業のイメージを広げてほしい。そう思うようになり、これが「働くろう者を訪ねて」を始めるきっかけとなりました。

「働くろう者を訪ねて」の取材を始めてから数か月が経った2021年8月現在、取材した人は15人です。

写真家としての私も含め、フリーランス、理容師、パン屋、福祉施設長、NPO代表、格闘家、牧師、八百屋、歯科技工士、映画監督、市議、謎解きクリエイター……。

取材を始めてみて、私自身にも「まさかろう者にそんな仕事はできないだろう」という思い込みがあることに気づかされました。当事者であるはずの私もまた、「ろう者」とか「聴覚障害者」という便利な言葉ひとつで、人間をひとくくりにしてしまっていたのです。

言葉というものは、便利である反面、ひとりひとりの個性をすっかり覆い尽くして見えなくさせてしまう作用があるとつくづく思います。

この世界は、言葉で束ねてしまっていては決して見えてくることのない、個性あるひとりが集まってできている。自分の予想をやすやすと超えて存在する他者との出会いが、「ろう者にはできない」という思い込みをほぐしてくれました。

思い込みがほぐれてみれば、世界に向けるまなざしもやわらかく、かつ、広がりあるも

のになっています。

出会った皆さんは、手話を抑圧されることなく、自分の大切な言語として使い、働いていました。手話という言語を使い、社会で働いて生きていくろう者がいる。そうすることで、手話という言語が身近にあることを実感する人が増えていく。コツコツとそうした人を増やしていくことが、めぐりめぐって、手話を必要とする当事者の助けとなる。私も、手話という言語を使って生きてきたろう者の先人の助けを得ていたのだと実感しました。こうして社会を変えることができるのだと確信することができました。

私もまた、手話を必要とするいつかのだれかのために、手話という言語をもって堂々と働いていこうと思っています。

齋藤陽道 ●さいとう はるみち

写真家。東京都立石神井ろう学校卒業。2014年日本写真協会新人賞受賞。写真集に『感動。』（赤々舎）、エッセイに『異なり記念日』（医学書院）、『声めぐり』（晶文社）など。ウェブマガジン『こここ』（マガジンハウス）内で、「働くろう者を訪ねて」を連載中（<https://oo-coco.jp/series/hataraku/>）。



※ 「LGBTQ+」「LGBTI」「LGBTQIA」などのよび方もある。

多様なルーツをもつ人々と

多様な文化に ひらかれた学校づくり



浜田麻里 ●はまだまり

京都教育大学教授(日本語教育、異文化間教育)。文部科学省「外国人児童生徒等の教育の充実に関する有識者会議」委員(令和元年度)、「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」担当など歴任。

日本の現状

多様なルーツをもつ人々が増えている。

日本には以前から多くの在日コリアンの人々が暮らしているが、1980年代後半にはインドシナ難民や中国帰国者の人々、90年代には南米から日系人が帰国・渡日した。最近では技能実習生等が日本で就労するようになり、少子高齢化による労働力不足の日本社会を支えている。2020年末時点の在留外国人数は288万7,116人で、1980年末時点の78万2,910人の約3.7倍になった。国籍・地域別で見ると、1980年末時点では外国人のほとんどは韓国・朝鮮籍(84.9%)だったが、2020年末現在では、1位中国(27.0%)、2位ベトナム(15.5%)、3位韓国(14.8%)、4位フィリピン(9.7%)、5位ブラジル(7.2%)のように多様性も高まっている(出入国在留管理庁「在留外国人統計」)。

日本国籍であっても両親のどちら

かが外国人である「ミックスルーツ」* の人も増えている。父母の一方が外国籍である子どもの出生率は、現在20歳未満に当たる2001年以降生まれを平均すると2.0%である(厚生労働省「人口動態統計」)。つまり20歳未満の日本人の50人に1人は外国にもルーツをもっていることになる。

このように、すでに多様なルーツをもつ人々は日本社会の一員である。そして多様なルーツをもつ子どもたちは、今後の日本社会を担っていく存在となっている。彼ら、彼女らのもつ多様性がこの社会全体の財産として発揮されるよう、学校教育は彼ら、彼女らの可能性を十分に引き出すことができるものになる必要がある。そして多様なルーツをもたない子どもたちも、多様なルーツをもつ子どもたちとどのように「共生」していくのかを学ばなければならない。そのためには、まず学校そのものが多様な言語や文化にひらかれた場所になる必要がある。では、具体的にどうすればよいのだろう。

マイノリティとマジョリティ

よく「異なる文化を理解する」というが、そんなに簡単なことではな



い。異なる文化が接触すると、その間には「力関係」が生まれがちだからである。強いほうは「マジョリティ」、弱いほうは「マイノリティ」とよばれる。何もしなければ、マイノリティはマジョリティへの同化を迫られるか、さもなくば社会から排除されることになる。誰しも何かしらの場面でマイノリティの立場になることはあるが、多様なルーツをもつ子どもたちはマイノリティの立場(いわゆるアウェーな感じ)にずっとあり続けているのである。しかも、少しでもマジョリティと違うことをすると、自分がマイノリティであることが露呈してしまい、いじめの標的になりかねない。知らずにルールを踏み外さないよう絶え間なく周囲に気を配りながら、多様なルーツをひた隠して子どもは暮らしている。

学校が多様なルーツをもつ子どもたちにとって、ほっとできる場になるためには、「マジョリティの日本文化 vs. マイノリティの文化」のような二項対立の関係にならないよう、「いろいろな文化」をシャッフルして、その中の一つとしての日本文化や○○文化のように位置づけることも一つの方法である。小学校なら、学校でいろいろな文化の遊びが行われて

いるとか、いろいろな言語の挨拶を学ぶ機会があるといったことからの雰囲気づくりも有効だろう。

また、自分自身の「常識」を疑ってみること。「普通」は単に日本人にとっての「普通」であるかもしれない。マジョリティの「普通」をマイノリティに無言で押しつけないようにするには、先生自身が「普通は○○するよ」「○○するのがあたりまえ」という言い方をやめることから始めることが必要かもしれない。

マイノリティに学ぶ

それでもマジョリティとマイノリティという境界がなくせないなら、マジョリティ側がマイノリティ側から学ぶという姿勢を常に示すことが重要である。マイノリティの文化をリスペクトする環境を社会や学校の中につくる。授業で積極的に多様な国や文化を取り上げるのもよい。例えば、音楽科で民族音楽を取り上げたり、家庭科で多様な食文化を扱ったりするのはどうだろう。地域在住の多様なルーツをもつ人々にゲストに来てもらうこともできる。

多様なルーツをもたないマジョリティの子どもたちにとって、多様な文化を知ることには重要な意味があ

る。日本人の中には、自分たちは他の民族より優れており、他の民族から学ぶことはないと考えている人たちがいるが、日本は世界でも飛び抜けて自殺率が高く、子どもの自尊感情が低い。この閉塞感を打破する知恵は、多様な文化との触れ合いの中にこそあるのかもしれない。

先生方の背中から子どもたちはたくさんのことを学んでいる。先生が多様なルーツをもつ人々をリスペクトしながら、言語や文化の違いを軽やかに飛び越えて対応する姿を見せることは、子どもたちにとって何よりも大きな学びになるのではないだろうか。

そこで、先生方への宿題。次の例、先生方ならどうされるだろうか。

こんなとき、どうする？

遠足のお弁当の時間。皆で一斉に弁当箱を開けると、アウン君の弁当箱には大きなピザ1切れとりんご1個。周囲の子どもたちは「えー、お弁当にピザって変なの!」と大騒ぎ。担任は保護者に日本式の弁当の作り方を伝えておくべきだったのか。

LGBTQを考える

学校における セクシュアルマイノリティ



貴戸理恵 ●きどりえ

関西学院大学准教授(教育社会学)。主な著書に『個人的なことは社会的なこと』『「コミュ障」の社会学』(ともに青土社)、『「コミュニケーション能力がない」と悩むまえに 生きづらさを考える』(岩波書店)などがある。

セクシュアルマイノリティを取り巻く状況

子どもが学校に行かなく・行けなくなる理由の一つに、セクシュアリティをめぐる生きづらさがある。「女装で盛り上がったたり、同性愛を『気持ち悪い』と言いつつたりする周囲について行けなかった」「制服、体育、トイレ、身体測定。とにかく学校は『男』か『女』かはっきり決まっていなくて行けない場所」「教師も『おまえコッチか?』などと平気で差別的なジェスチャーをしていた」

セクシュアルマイノリティの手記などには、そうした話がよく出てくる。

セクシュアルマイノリティの割合は人口の3～5%といわれており、学校のクラスの1～2人は該当する「少なくない少数派」だ。学校がそ

うした存在をいないものとしていることで、多くの生徒が学校に行きづらくなっている現実がある。

教育政策では、「男性、さもなくば女性」という性別二元論が厳然と存在している。例えば、中学校学習指導要領解説においては、2021年現在も「異性への関心」という記述が残っており、同性愛など多様な性的指向はないことにされている。

また、文部科学省は2010年代以降、通知や調査を通じて「性同一性障害」への対応に取り組んでいるが、「性同一性障害」とは「男性／女性」「正常／異常」といった二元的価値に基づく医療上の概念である。出生時に割り当てられた性別に違和感をもつ人は、「女性になりたい男性」「男性になりたい女性」とは限らず、「ノンバイナリー」といわれる「どちらでもない／ある」「決められない」などの場合もあるし、性別違和それ自体は疾患ではない。より多様な性



の在り方を含意する「トランスジェンダー」のほうがふさわしいだろう。

さらに、教育政策においてセクシュアルマイノリティは、いじめ防止や自殺予防といった観点から取り上げられることが多い。しかし、いじめや自殺は、社会のセクシュアルマイノリティ差別の結果として表面に現れてきたものである。教育もまた、社会の一部として自らが差別に加担してはいないか、反省的に問い直していく姿勢が重要だろう。

マイノリティの権利が尊重される社会に

鍵は「マジョリティが変わる」ことであるように思う。ポストコロニアル研究*のなかで指摘されてきたように、マジョリティとは差別的な社会構造から利益を得ている多数派のことだ。その変革がなされないまま「マイノリティに配慮」するだけでは、差別的な構造は維持されてし

まう。

例えば「性同一性障害」は、マジョリティにとって受け入れやすいカテゴリーである。「男性」「女性」という枠組みを壊す必要がなく、「障害のある存在に配慮する」なら自分は何も変わらなくとも対応できると思われやすい。

だが必要なのは、多数派の「厚意」によって与えられる「特殊な人への配慮」などではなく、マジョリティの在り方そのものを問い直すことによって、マイノリティの権利が当然のように尊重される社会をつくることだろう。「生徒は男性／女性のいずれかであり、性的関心は異性へ向かう」ことを前提としている学校環境を、変えていかねばならない。

教育現場での取り組み

では、教育現場に生きる「私たち」はどうすればよいか。重要だと思われる2点を挙げたい。

第一に、子どもたちにセクシュアリティに関する学習権を保障することである。セクシュアリティは性を通じた自己認識や他者との関係性を規定しており、「自分が自分である」ことの根幹に関わっている。セクシュアルマイノリティについての知識や、マジョリティの性も多様な性の

在り方の一つであることなどは、人権教育の一環としてすべての子どもが学ぶ機会を提供されるべきものだ。その際、「セクシュアルマイノリティであること」はその人を説明する多様な項目のうちの一つであり、多面体である個人を「レズビアンの人」などセクシュアリティの特性のみに還元するのが不適切であることも、併せて伝えられるとよい。

第二に、教員や保護者の知識の更新である。教員が無知なあまりセクシュアルマイノリティを差別していたり、生徒間のいじめを見過ごしていたりすることはあまりにも多く、早急な改善が求められる。また当然のことだが、教員や保護者もセクシュアルマイノリティでありうる。学校は職場として同性パートナーをも

つ教員やトランスジェンダー教員の権利を守っているか。PTAは子どもを育てる同性カップルやステップファミリーなど、性や家族の多様性に対応しているか。「自分の学校にはいない」と思うならば、それは当事者にとってカミングアウトできる環境ではないことの現れだと認識すべきだろう。その場にセクシュアルマイノリティがいることを前提に振る舞う人権感覚を、学校に関わる大人たちは身につけていかねばならないと自戒を込めて思う。

子どもは大人が「何を言うか」より「何をするか」をよく見ている。教師や保護者が変われば生徒は変わり、多様なセクシュアリティをもつ人が通いやすい学校の実現が見えてくるだろう。

LGBTQに関してもっと知りたいときに



もっと知りたい！話したい！
セクシュアルマイノリティ
ありのままのきみがいい
(全3巻)
日高庸晴 著
汐文社／2015年



誰かの理想を
生きられはしない
とり残された者のための
トランスジェンダー史
吉野 毅 著
青土社／2020年



10代から知っておきたい
あなたを閉じこめる
「ずるい言葉」
森山至貴 著
WAVE出版／2020年

道徳教育において多様性をいかに扱うか



多様性は大事だけれど

多様性（diversity）に対する学校教育の取り組みとして、インクルーシブ教育や、多文化共生教育、性の多様性を意識した実践などが展開されています。ここでは、これら多様性に関わる問題の根底にある「私たちはそもそも、無意識のうちに先入観をもって、他者を見てしまっているのではないか？」というところに切り込んでみたいと思います。

「無意識のバイアス」

道徳心理学者のグリーンは『モラル・トライブズ』^{※1}において、数万年にわたる長い歴史の中で、人間は集団内において協力するように進化したことを述べています。私たちは同質なものから成り立つ集団を形成し、そこで他者への思いやりや平等性という考え方を獲得してきました。そのほうが種の保存にとって有益だったからです。しかし、このことは、同質なもので集まっているはずの集団の中に異質なものを（外見的なものから、考え方や振る舞いなどまで）が入ってきた際には、それを排除するという特徴もあることを意味します。こうした特徴は、私たちの思考にも影響を与えるでしょう。「無意

識のバイアス」とよばれるものがそれです。

「無意識のバイアス」とは、私たちが知らず知らずのうちに抱いてしまっている先入観や偏見を意味します。私たちは相手の身なりや出自を見ただけで、直感的に判断や評価を下してしまっています。そしてそれは直感的＝無意識であるところが非常に厄介なところですよ^{※2}。

自分が特権階級（マジョリティ）にいるときには、さらに厄介です。男性が優位な社会で生活を送っている男性は、その社会において特権階級です。「日本人」が多い教室では「日本人」が特権階級です。そして、自分が特権階級にいるという自覚がないと、マイノリティに対する無意識の先入観や偏見にますます気づかなくなるのです^{※3}。

道徳の授業で何ができる？

まずは、人間尊重の精神、基本的人権を尊重するという価値について、子どもたちに伝えていく必要があります。日本国憲法、世界人権宣言などで主張されていることです。「私たちは一人一人が大切な存在である」ということは、学校生活のあらゆる場面で伝えていく必要があるでしょう。これは、教室そのものが人

間尊重や共感に満ちた安心・安全な場であることにもつながります。

そのうえで、さらに必要になってくるのが、子どもたちが自分の「無意識のバイアス」に気づいていくことです。そのためには、そもそもを問い直していくクリティカルな働きかけが必要になってきますし、多様な人々との交流も大切です。世の中の問題発言などを取り上げて、「誰のことを配慮していない発言か？」ということを考えてもよいでしょう。

多様性を大切にするためには、自分自身が多様性を否定する考えをもっているかもしれないということに気づく必要があります。主義・主張が固定的になる前の義務教育段階だからこそ、多様であることの重要性に気づかせていきたいですね。



荒木寿友 ●あらかすとも

立命館大学大学院教授(教育学、道徳教育)。主な著書に、『いちばんわかりやすい道徳の授業づくり』『ゼロから学べる道徳科授業づくり』（ともに明治図書出版）などがある。

道徳授業を成功させよう

知って役立つ発達心理学

渡辺弥生

Yayoi Watanabe
(法政大学教授)

第②回「葛藤」解決の発達心理学

道徳科の授業では、対人関係の問題が扱われることが少なくありません。実際、小学校中学年以降の友達関係はたいへん複雑で、子どもたちには大きなストレスとなっています。

教員が、リアルな子どもたちの「葛藤」をどれだけ想像できるかということと、こうした悩みや葛藤を解決するための見通しをもてる子どもたちの時間的展望の能力の発達を知ることが、子どもの心に寄り添えるかどうかの鍵になります。

葛藤のエスカレーターを経験させよう

「葛藤のエスカレーター」というワークをご紹介します。仲の良い二人が、ある出来事をきっかけに対立してしまうという話をなぞっていくワークです。詳しい内容はウェブサイト上の資料をご参照ください^{*}。

このワークでは、子どもたちに、①二人が絶交に至るまでのシナリオ、②二人が絶交から仲直りに至るまでのシナリオ を考えさせます。

葛藤は、大切な友達を失いたくないことが原因だった！

ワークに沿って子どもたちに自由に葛藤の場面を想像させると、絶交に至るまで、ものすごい言い合いを

書く子もいれば、言葉少なに絶交に至る子もいます。ただ、驚くことに、それなりに「絶交」までの言い合いを想像しても、どちらかが謝ると、「私もごめんね」とあれよあれよと大の仲良しに戻ることが大半です。

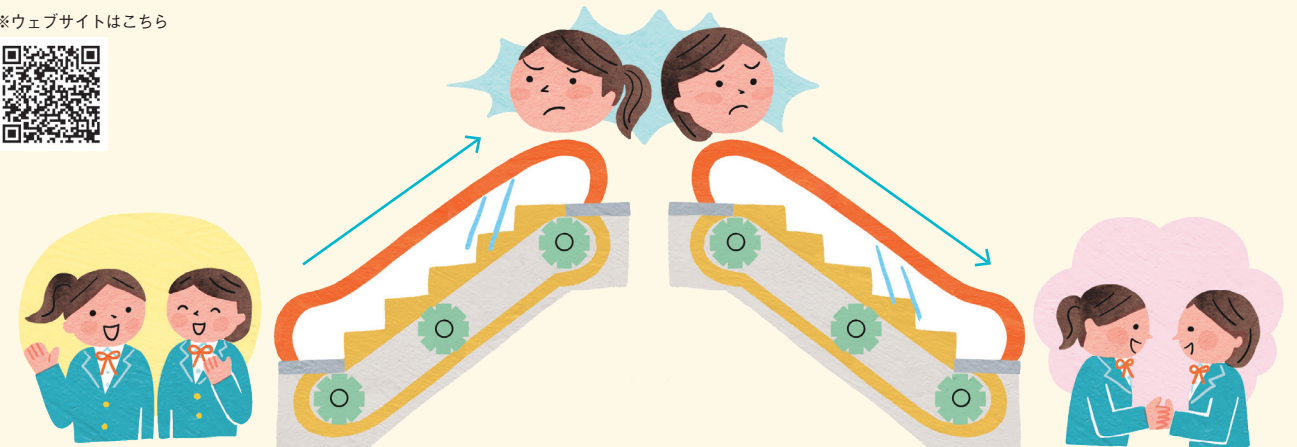
もっと驚くのは、リアルな生活では、こうした心の声や言い合いを我慢して、ほとんど葛藤を見せないことです。実際には、友達との関係を自然消滅させることを選ぶ生徒が少なくありません。傷つきたくない、傷つけないという気持ちが強いためでしょう。

言い合うのは他人を、そして自分自身を理解するためであり、事の発端は「友達でいたい」という情熱であることに気づかせましょう。葛藤しても問題は解決できること、そして、争いやいざこざの原因はいろいろあっても、大事なものは、お互い友達でいたかったこと・これからも友達でいたいことなのです。この「葛藤を解決する力」と「時間的な展望の力」とを身につけさせること、仲良くなる体験を重ねさせることが、授業でも、実生活でも重要なのです。

渡辺弥生 ●わたなべ やよい

発達心理学、教育学博士。法政大学文学部教授。著書に『感情の正体——発達心理学で気持ちをマネジメントする』（筑摩書房）、『子どもの「10歳の壁」とは何か？ 乗り越えるための発達心理学』（光文社）など。監修に『まんがでわかる発達心理学』（講談社）など。光村図書小・中学校『道徳』教科書編集委員。

※ウェブサイトはこちら



※1 『モラル・トライブズ 共存の道徳哲学へ(上・下)』（ジョシュア・グリーン 著、竹田 円 訳／岩波書店）

※2 『無意識のバイアス 人はなぜ人種差別をするのか』（ジェニファー・エバーハート 著、山岡希美 訳／明石書店）

※3 『真のダイバーシティをめざして 特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育』（ダイアン・J・グッドマン 著、出口真紀子 監訳、田辺希久子 訳／上智大学出版）

「漢字に思いをこめて」

出典：光村図書「どうとく3 きみが いちばん ひかるとき」

愛知県刈谷市立富士松南小学校
教諭
なかの しんご
中野真悟



学年 3年 内容項目 C (14) 家族愛、家庭生活の充実

ねらい 家族に対する思いを振り返り、家族の一員として家庭生活をよりよくしようとする意欲を高める。

わたしの授業、ポイントはココ！

この授業は3学期に実施しました。児童が自分事として納得できる考えを導くことができるよう、指導過程を工夫しました。

3年生は、家族に何かをしてもらうのがあたりまえで、家族のことをあまり考えていない児童もいます。そこで、まずは教材の作例を読んで漢字一字を考えさせ、これまで考えてこなかった家族への思いを、主体的に振り返るようにしました。ただ、それでも児童は、家族の一人に限定的な思いをもつだけかもしれません。そこで、グループやクラスで友達の思いを共有しました。さまざまな家族に対する思いが発表さ

れ、考えが広がりました。

この内容項目では、家族で協力して楽しい家庭をつくることについて考えさせていきます。中心的な発問として「家族と笑顔で生活するために大切なことは何か」を問い、クラスのみんなが考える「大切なこと」を共有し合いました。その後、これまでに考えてきたことを自分事として捉えながら、自分がこれからしたいことを考えられるようにしました。本時の学びを自分につなげることで、児童は、家族への感謝や、自分勝手な行動を律することの大切さについて、深く考えたようです。

中野先生の授業、ココに注目！

効果的な学習活動によって、広がりや深まりのある授業になっています。まず、児童は家族の一人を念頭に、自分の思いを表すのに最適な漢字を一字選択します。この活動で、児童は自分と家族の関わりを改めて思い起こし、感謝の念や信頼、愛着を強めています。また、家族の形態や実生活が違えば、関わり方も抱く思いもさまざまです。友達と交流し、それらにふれることで、家族の概念が広がり、家族と自分の関わり方を多様な視点で見つめ直すことができ、今後の自分の在り方にも気づくことができます。

元東京都練馬区立光和小学校 統括校長
あさくら ゆみこ
朝倉喩美子

教材の内容(あらすじ) 「家族への思いを漢字一字に込めるとしたら、あなたは、どの漢字に、どんな気持ちを込めて伝えたいと思いますか？」教科書に掲載されている子どもたちの作例を参考に、自分でも家族を思い浮かべて漢字一字を選び、そこに込めた思いを表す活動を行う。

1

冬休みの家庭生活について振り返る

発問 冬休みは、家族とゆっくり過ごせましたか。

- 過ごせた。
- あまり過ごせなかった。
- ゲームをしすぎてしかられた。

冬休みの生活を振り返り、家族との関わりに意識を向けることで、家族について考える本時の教材につなげた。

2

教材を読み、家族への思いを表す漢字について考える

発問 家族への思いを、漢字一字に込めて書きましょう。

▶「誰に対して」「どんな漢字に」「どんな思いを込めたのか」を考えて書きましょう。

発問 家族への思いを込めた漢字を発表しましょう。

- お父さん 「買」→いろいろなものを買ってくれてありがとう。
- お姉ちゃん 「姉」→自慢のお姉ちゃんです。
- お兄ちゃん 「遊」→また遊ぼうね。
- お母さん 「名」→名前をつけてくれてありがとう。
- お母さん 「心」→お母さんのおかげで思いやりがもてるようになったよ。
- 妹 「好」→大好きだよ。

家族の誰へのどんな思いかを想起できるよう声をかけ、家族との関わりを主体的に振り返って考えさせた。

グループで自分の考えを発表させた後、クラスでも意見を出し合うことで、家族に対するさまざまな思いがあることを、全体で共有した。

家庭生活の充実について、クラス全体で話し合う

中心的な発問 家族と笑顔で生活するために、大切なのはどんなことでしょう。

- 悪口を言ったり、無視をしたりしない。
- 家族が困っていたら助ける。
- 家族といっしょに映画に行く。▶それは家族にとって、どういうところなのかな？
- 家族といっしょに、絆が深まるところに行く。
- マッサージをしてあげる。
- 楽しくいっしょに遊ぶ。
- お手伝いをする。

導入で振り返った家族との関わりと関連させながら、毎日、家族と笑顔で生活するために大切なことを尋ね、家族の一員として家庭生活をよりよくするには、具体的にどうすればよいのかを考えさせた。

児童の意見に問い返しをすることで、意見に込められた意味を深めていった。

3

本時の振り返りとして、ここまで考えたことを自分事として捉え直す

発問 家族と笑顔で生活するために、あなたは、どんなことをしたいですか。ワークシートに書きましょう。

- 自分からお手伝いをして、親子げんかをしないようにしたい。
- 兄弟げんかをやめれば、お父さんもお母さんも笑顔になると思う。
- 家事をしてもらったら「ありがとう」「手伝おうか？」と言って、お母さんを助けたいと思う。
- 気持ちがモヤモヤするから、悪いことを言ったらすぐに謝る。

発問 今日の授業を通して学んだことを、自分がこれまで思っていたことや、体験したことと比べながら書きましょう。

- 今までは、遊んでもらうのがあたりまえみたいに思っていたけど、遊んでもらうのがとても幸せと感じた。
- 家族とけんかになると、つい悪口を言ってしまうことがあるので、気をつけたい。言ってしまうと、心が傷つくから。
- お父さんやお母さんに「ありがとう」や感謝の気持ちを伝えたことがなかったので、それを言いたい。

家族への思いを込めた漢字や、クラス全体で考えた「家族と笑顔で生活するために大切なこと」を基にして、「自分はどんなことをしたいか」を考えさせ、自分事として納得できるようにした。

家族に関するプライバシーを守るため、全体の前では発表せず、自己内対話をしながらワークシートに書かせた。

「宇宙の始まりに 思いを寄せて」

出典：光村図書「中学道徳2 きみが いちばん ひかるとき」

東京都武蔵村山市立第四中学校
主幹教諭
たかはし ゆうこ
高橋優子



学年 2年 内容項目 D(21) 感動、畏敬の念

ねらい 天文学者の大内正己さんの気持ちを共感的に捉えることを通して、「感動する心」を見つめさせ、感動する心を大切に生きていく心育を育てる。

わたしの授業、ポイントはココ

この授業を行う際に心配だったのは、「感動する心」について考えたことのある生徒はそれほど多くはなく、他人事として「へえ、そうなんだ」で終わってしまうのではないかと、ということでした。しかし、この教材から伝わる「心を揺さぶられるような感動」について、生徒にも自分事として捉えてもらいたいと考え、以下のような工夫を行いました。

1 発問順の変更

私の学校では、ローテーション道徳に取り組んでいます。何度か授業をする中で、生徒から「感動は、人にどんな力を与えるか」は、自分の体験を思い出してからの方が考えやすいとアドバイスされました。そこで、次の授業では、

それまでと発問の順を変えて、「筆者の大内さんの感動体験」→「自分の感動体験」→「感動の力」としたところ、自分のフィルターを通して、より主体的に考えていくことができました。

2 教材を生かすための工夫

筆者の大内さんの職業や研究テーマを解説するスライドを作成し、教材を読んだ後に、生徒に見せました。このスライドによって、幼少期の感動体験が、現在の職業や研究テーマにつながり、大きな発見にまで影響していることを短時間で押さえることができました。その分、中心的な発問での話し合いに十分な時間を取ることができ、「感動する心」を深く見つめていくことができました。

高橋先生の授業、ココに注目！

道徳科は、生徒と教師がいっしょになって、よりよい生き方を探求し合う時間であるだけに、授業者の姿勢が問われるものです。個人的な精神作用である「感動」をどう共有し、互いの生き方に反映するのかという難問を、正面から生徒に投げかける、誠実で真摯な先生の姿が授業に表れていました。扱いにくい内容項目を取り上げる際は、その内容項目と関連の深い内容項目の教材を組み合わせ、複数時間のユニットとして授業することも考えられます。よりいっそう生徒の琴線にふれる授業となるでしょう。

國學院大學 教授
たぬま しげき
田沼茂紀

教材の内容(あらすじ) 2008年、天文学者の大内正己さんは、宇宙の誕生と進化の手がかりとなる巨大天体「ヒミコ」を発見した瞬間、思わず立ち上がって叫んだ。宇宙との出会いは、小学校1年生のとき。そのときの、涙が止まらなくなるほどの感動が、今でも天文学者としての大内さんの原動力となっている。

1

自分の感動体験に意識を向ける

発問 あなたがこれまでに感動したことを思い出してみましょう。

- 映画や漫画を見て感動した。 ● 音楽を聞いて感動した。
- 感動したことがない(思い出せない)。

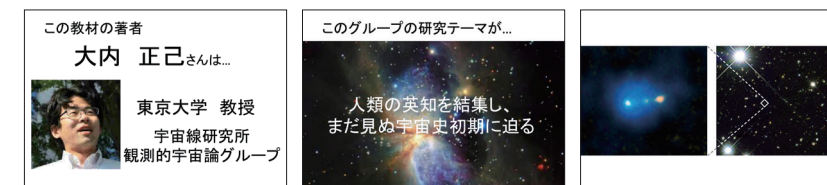
考えよう(考えるテーマ):「感動する心」を見つめよう。

感動体験を思い出せない生徒もいるため、数人の感動体験を発表させ、「考えよう」につなげた。

2

「宇宙の始まりに思いを寄せて」を読んで、考える

筆者の大内正己さんについてのスライドを見せる。



発問 次の三つの感動に対して、大内さんはどんな気持ちだったでしょう。

- ① 小学校1年生で、絵本を読んで涙が止まらなくなったとき
 - そんなに大昔のことだったのか(時間の長さへの感動)。
 - 宇宙は大きいんだ(スケールの大きさへの感動)。
- ② その後、ベランダで草木の緑を見たとき
 - 大昔の何も無い地球と今の地球との違いに驚いた(変化への感動)。
- ③ ヒミコを発見したとき
 - 宇宙の原点を見つけた(発見の喜び)。
 - 研究が実った(努力の成果)。

発問 あなたが感動したことを思い出しましょう。そのとき、あなたは、なぜ、感動したのでしょうか。

- 1年生の合唱発表会。みんなで生み出したことの喜びに、心が揺さぶられた。
- ドッジボール大会。ボールをキャッチできて、達成感を味わえたから。
- 剣道の試合で負けたとき。相手の技術に、尊敬と憧れを感じた。
- ピアノが弾けるようになったとき。成長できたと感じたから。
- アニメ映画の人を助けるシーン。自然と心がいっぱいになった。

中心的な発問 感動は、人にどんな力を与えるでしょう。

- やる気、自信、友情、仲間との絆、成長。 ▶なぜ、やる気が湧いてくるの?
- 努力してきたことが、「感動」という形になったから。
- 感動を人と共感したいという思い。 ▶なぜ、共感したくなるの?
- 共感すればするほど、相手の気持ちがわかるから。
- 感動は、目標を示す。 ▶もっと具体的に説明できる?
- 「すごいな」という感動が、「こうなりたい」という目標につながるから。
- 生きがいや生きる力を与えてくれる。
- 感動すると、今までにない感情が、自分の胸にいつまでも残る。
 - ▶自分の胸に残ると、どうなるの?
- また味わいたいと思って、努力できる。

教材を読んだ後に、筆者の大内さんの職業や研究テーマなどをスライドで見せることで、生徒が、大内さんの感動体験に寄り添って考えられるようにした。

大内さんが体験した心を揺さぶられるような感動の場面とそのときの思いを押さえて、大内さんの「感動する心」を見つめさせ、中心的な発問に備えた。

自分の感動体験と感動した理由について尋ねて、自分自身の「感動する心」を見つめさせ、中心的な発問につなげた。

個人で考えた後、生徒どうしで言葉にして伝え合うことで、当時の自分の「感動する心」を鮮明に思い出したり、友達の体験から別の体験を思い出したりすることをねらった。

大内さんや自分自身の「感動する心」を踏まえて、感動することのよさやその理由を、クラス全体で話し合い、共有していった。

個人で考えた後に、何人かに発表させた。適宜、理由をさらに掘り下げるような問い返しをして、クラス全体で考えを深められるようにした。

3

ワークシートに、今日の授業で考えたことや感想を記入する

発問 今日の授業で考えたことや感想を、ワークシートに記入しましょう。

- 感動を味わうことは、人生の中で一つの明るい星を見つけるようなものだと感じた。「感動する心はきれいだ」と思った。

中心的な発問での話し合いを通して、さらに自分の中で考えたことを書くよう促した。

道徳授業で 哲学鍋を

苦野一徳

Ittoku Tomano
(熊本大学准教授)

「自由」って、何だろう？

これからの連載では、私が実際に子どもたちと行った本質観取の模様をお伝えします。

本質観取とは、例えば、幸せとは何か、よい教育とは何か、恋とは何か、など、さまざまな事柄の「本質」を、言葉にして編み上げていく営みです。もちろん、絶対に正しい「本質」などはありません。でも、「なあるほど、それは確かに言えてる！ 本質的だ！」という考え（言葉）を、みんなで見だし（つくり）合うことができます。

今回のテーマは、「自由って、何だろう？」。対話に参加してくれたのは、なか（小4）、ニキ（小6）、サユ（中1）、マツ（中2）、とし（中3）、まさ（中3）。

紙幅の都合上、全ての対話内容を書き起こすことはできませんが、大きな流れはつかんでいただけるよう書いていきたいと思います。

まずひと言。最高に、楽しかった！こんなに深いところまで思考と言葉を届かせることができるなんて、子どもたち、やっぱりすごい！

「自由」の本質がわかれば、 どんないいことがあるだろう？

苦野 本質観取の最大の意義は、物事の本質がわかると、それにまつわるいろんな疑問が解けたり、問題が解決したりすることなんです。今回は、「自由」の本質観取をするわけ

だけど、その本質がわかったら、みんなにとってどんないいことがあると思う？

マツ 今日は一日カヌーを漕いでたんですけど、すごく自由だった。自由の本質がわかれば、もっと自由を感じるにはどうすればいいのかわかると思う。

とし 学校でいろいろあって、行っていない時期がありました。最初は自由だと思ったけど、今度は暇すぎて、自由じゃなくなった。だから、自由っていったい何なんだろうって……。

苦野（全員の問題意識を聞いて）いや～。どれもすごくいいな～。今回の本質観取を通して、ぜひ、みんなのギモンが解けたらいいと思います。

どんな時に「自由」を感じる？

苦野 じゃあこれから、みんなが「自由だー」って感じる時の具体的な例を、たくさん挙げていってもらえるかな。そうすると、その全ての例に当てはまる「キーワード」がきっと見えてくる。

なか 出かける用事が何もない時！

ニキ 自転車であっちゃん飛ばしている時！

まさ 海で思い切り泳いでる時！

とし 一人になれる時。でも、寂しい時は家族がいてくれたほうがいい。

サユ 何かに没頭してる時！

なか 夜ふかししている時！

苦野 なるほどね。そういえば、普段は禁止されているような、ちょっと悪いことをする時も、自由だなあって感じることもあるよね。おもしろい！

キーワードを見つけてみよう！

苦野 これまでに出てきた例の、全てに共通しそうなキーワードはありそうかな？

なか 親とかに制限されていないこと。

苦野 おお、いきなり本質的なキーワードが出たね。

ニキ 普段できないことができること。

苦野 それも言えてる！

とし だからといって、人を傷つけないことが大事ですよ。

マツ うん、自己中心的すぎると、逆に自由を感じられないかも。

苦野 うんうん、すごいぞ。言ってるぞ！

まさ したいことができている時が自由なんじゃないかな。

苦野 おっ、それはとってもしっくりくるな。みんなどう？ ピンと来る？

みんな うん、それはどんな自由にも共通してると思う！

ニキ 趣味を爆発させること、っていうのはどうですか？

苦野 爆発！ それはおもしろい言い方だ。

マツ 爆発しない時もあるから、自由には程度があるってことじゃないかな。ちょっと気持ちいいって感じから、好きなことを爆発させるってことまで。

苦野 おお～なるほど、それは言え

てる！

マツ あと、さっき、普段できないことっていう話があったけど、一人になれるとか、海で思い切り泳ぐとか、夜ふかしとかも、その気になれば全然普段できると思うんですけど、どうですか？

とし でももしそれを毎日やってたら、新鮮味がなくなってあんまり自由を感じないんじゃないかな。

サユ 確かに、日頃できないことで鬱憤を晴らすと、すごく自由って感じる。

マツ 言われてみれば、自由にとってそういう非日常性って大事かも。

本質を言葉にしてみよう！

苦野 そろそろ、「自由とは○○○○○○○○である」みたいな言葉にしてみようか。その時のポイントは、まず簡潔な言葉にしてみる。で、さらにその言葉を補う言葉も置いていく、って感じ。すでにいいキーワードがたくさん出てるから、まとめていけばいいと思う。例えば、「自由とはしたいことができることである」って、けっこう言えてると思うんだけど、どう？「ありがたい自分であることである」なんてのもいいかもね。

みんな 納得。

とし でもそれが人に害を加えないっていうのが大事でしたよね。

苦野 そう、まさに！ なので、そんな言葉を補っていく。「自由とは、したいことができることである。ただし、人に害を加えない範囲内で」みたいな感じ。そんなふうにさらに言葉を紡いでいくと、どんなふうに

言えるだろう？

なか 気持ちよさとか楽しさがある。

苦野 いいね。「自由には必ず、気持ちよさや楽しさ、また解放感がある」という言葉も補っておこう。

マツ その解放感は、ちょっとした気持ちよさから爆発まで、幅がある。

苦野 それもいただき！

ニキ 普段できない。非日常。

苦野 それも重要だね。「日常にない感じが必ずある」なんて言い方はどう？

みんな いいと思います！

苦野 いいね。いい本質観取ができた。あとは、いま言葉にしたことが、どんな「自由」にも当てはまるか、みんなで確認しよう。そして、最初にみんなが出してくれた問題意識に、十分応えるものになっているかも確かめよう。それらがうまくいけば、今日の本質観取は大成功！ みんなありがとう。とっても楽しかった！

今日のまとめ

自由とは、したいことができることである。ただし、人に害を加えない範囲で。自由には、気持ちよさや楽しさ、解放感が伴う。その解放感には、幅がある。そして、日常にない感じが、必ずある。

最後にこんな感想をご紹介。「学校では決められた答えを覚えるのがメインだけど、今日は自分たちで答えを見つけ合っていくのがとても楽しかったです。自分の考えが広がっていくのを感じました。」

まさに、これこそ哲学対話の醍醐味ですね！

「哲学鍋」とは、みんなの考えをもち寄りぐつぐつ煮込みながら、みんながおいしいと思える味（より本質的な考え）に仕上げていく営みをイメージしたものです。



苦野一徳 ● とまの いっく

1980年兵庫県生まれ。熊本大学教育学部准教授。専門は哲学、教育学。著書に『はじめての哲学的思考』（筑摩書房）、『愛』（講談社）など多数。

編集部だより

多くの犬が散歩する広場に通うようになって2か月。「女の子ですか」と、何度かきかれることがありました。私のことではありません。連れてくる犬のことです。オスなので、そのように答えると、ある方からは「リードが赤だから、てっきり女の子かと思いました」と言われました。無意識のバイアスをリアルに感じた出来事でしたが、自身とて、リードは毛の色に合わせ選んだものの、犬のグッズ類は青系がほとんど。バイアスありでした。多様性を理解し、認め合えるようになるには、自分もつバイアスやマジョリティ性を知ることが大切なのだと、特集を通して感じています。自分では気づけていないそれらでも、^{くどい}件のリードのことにように、他者に気づかせてもらえることもあると実感しました。人との関わりは大事ですね。

多様性の課題は、子どもたちといっしょに考えていきたいテーマです。これからの教科書でできることを、しっかり考えていきたいと思います。

17万部
突破!



こどもとおとなと、 そのあいだのひとたちへ

がっこう、たのしい、うそ、友だち、しあわせ、
自分、正義、ゆるす、自立、立場、ふつう、夢、
そして「考える」ということ——。

ふとした瞬間にうかぶ「なんだろう」を、
大人気絵本作家・ヨシタケシンスケが徹底追究！
道徳教科書（小1～中3／光村図書）のコラムに、
かきおろしを加えた一冊です。

なんだろう なんだろう

ヨシタケシンスケ 作／定価：1,650円(税込)
237mm × 186mm / 48p / ISBN978-4-8138-0264-8



光村図書Twitter公式アカウントを開設しました

光村図書の懐かしの教材や、教科書にちなんだ豆知識やクイズなど、
教科書を身近に感じていただける情報をお届けいたします。

フォローはこちらから➡



光村図書

道徳科通信 No.2 2021年11月5日発行

発行人 吉田直樹

発行所 光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL.03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp E-Mail koho@mitsumura-tosho.co.jp

デザイン 鷹嘴麻衣子 イラスト カトウミナエ／熊本奈津子／霜田あゆ美 印刷所 協和オフセット印刷株式会社

●個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。

詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

●広報誌の配送停止については、光村図書出版までご連絡ください。